J-44

中華人民共和国における養老リゾートコミュニティ計画

Endowment Resort Community Planning in the People's Republic of China

佐藤信治[1]，　○郎敬禹[2]，
Shinji Sato[1]，　Jingyu Lang[2]

In Japan today, the aging of the population is a social problem. On the other hand, China, a neighboring country with a large population, is also facing the same problem of aging. In the case of Japan, the aging rate is 28.4% (as of September 2019), while in China it is 11.9% (as of December 2019), but in terms of the number of elderly people in China, a country with a large population, it is 167 million, more than Japan's population. It is also predicted that in 2040, 20 years from now, approximately 500 million people will be elderly, making China a super-aged country. Because of the large number of people living in China, high-rise condominiums are lined up in the urban centers and suburban areas, and there are few places for community. This has led to a variety of problems, such as lonely deaths among the elderly and the progression of dementia.

Furthermore, three issues are attracting attention in the future of China: the first is the social security issue. The first is the social security issue, as the number of elderly people increases, the per capita burden will become greater. Second, there is currently no place for the 500 million elderly people to live. The third is the lack of opportunities for communication. The third is the lack of space for communication. However, since China is a vast country, it is necessary to make a universal plan that can be adapted to any land. By planning a place that satisfies all of these requirements and where people subjectively want to go, we can counter the super-aging problem that is expected to occur in the future. A specific example is the Wigan Summering Department Store located in Italy, Europe. It is a redevelopment of an unused farm that has become not only a home for the elderly, but also a resort and tourist attraction that attracts visitors from all over the world.

1. はじめに

現在の日本では高齢化を社会問題として抱えている。その一方、隣の人口大国である中華人民共和国（以下、中国と略）でも同じく高齢化が問題視されている。日本の場合、高齢率は 28.4%(2019 年 9 月現在)、中国の場合は 11.9%(2019 年 12 月現在)であるが、中国の高齢者数で見ると 1.67 億人と日本の人口を上回る。また、20 年後の 2040 年には約 5 億人の国民が高齢者となり超高齢者大国になると予測されている。中国では多くの人々が住むために都市の中心部や近郊部に高層マンションが建てられ、コミュニティの場が少ないと考えられている。そのことで、高齢者が孤独死や認知症の進行など様々な問題の発生がしている。

また、これからの中国でさらに三つの問題点が注目されている。1つ目は社会保障問題である。高齢者が増え、一人当たりの負担が大きくなる。これは社会福祉施設の不足や年金の不足が問題とされている。２つ目は、現在のところ約5 億人の高齢者が住む場所は確保されないことである。３つ目は、コミュニケーションの場がないことである。これらは様々な問題へと相互に繋がっている。そこで本提案でこれを改善するために理想的な場を提案する。しかしながら中国は広大な国なのでどの土地でも対応できる普遍的な計画をしなくてはならない。これら全て満たした人々が主観的になり行きたがる場を計画すことで、これから起こると予想される超高齢化問題に対しての対策となる。ヨーロッパのイタリアに位置するウィガンサマーニングデパートがその具体例である。使われていない農場を再開発し、高齢者が住むだけではなく、世界中から観光客が訪れるリゾート施設、観光名所となっている。

そこで本論では中国のリゾート施設に着目し、高齢者および一般の人が同時に活用できる施設を計画する。深い歴史や自然があふれる環境で水辺と一体的なリゾート施設の空間として整備していくものである。

2.　計画背景

2.1　高齢化の進行

１９６０年代から一人っ子政策が始まり、高度経済成長期を経て、現在その政策はなくなりましたが、日本と同様、高齢者の数が多くなり、その下を支える若い世代の人が少なくなっている。

2.2　都市のサスティナブル性

中国における高齢者の社会保障体系は，主に養

1:日大理工・教員・海建　Department of Oceanic Architecture and Engineering，　CST，　Nihon University.
2:日大理工・院（前）・海建　Department of Oceanic Architecture and Engineering，　CST　，　Nihon University.

老保険と医療保健を基礎としている。前者は主に高齢者の基本的な生計を支え，後者は医療衛生面での負担を解決し，高齢者の生活保障に大きな役割を果たしている。この基本構造は日本のシステムと大差ないといえるが，日本の介護保険に相当するサポートが中国ではまだ整っていない。治療を必要とする「医」の部分に医療保険が対応し，日常の生活と健康維持という「養」の部分を養老保険と家庭あるいは施設養老が担うとしても，機能喪失・部分的喪失高齢者の長期介護については対応が不十分であり，現状では「養」の特性も含まれる長期介護を「医」によって替している状態にある。

2.3　効率的な管理体制

中国養老サービスの管理には，民政部，商務部，全国老齢工作委員会，国家発展和改革委員会，財政部，国家衛生健康委員会など多くの部門が関わっており，それらの責任と権限の境界が不明確である。さらに，政策の出処が必ずしも一致していないことから，内容の重複や交叉のみならず，対立する場面も見られる。政策の実施において，統一なサービス基準と責任主体が形成できなければ，養老サービスの産業化のコストを高めてしまう。現行の養老サービス政策は，主に国営機構と非営利の民営機構を対象としており，民間の養老サービスを提供する企業にとって，関連政策などからの支援がほとんど得られない状況にある。

2.4　システム形成

現在中国に仕事環境が整っていない。仕事を探している人は９３００万人もいる。高齢者の増加、仕事数の減少によりリゾート施設で問題解決を目指す。高齢者は安心に暮らせることができ、外部に仕事場の提供する。また高齢者も農業をすることにより稼ぎ生活環境の改善や社会保障問題が少しでも解消される。

3.　計画敷地

Figure 1. Planned area

3.1　黄河に挟まれ

計画敷地は中国陝西省潼关市に位置し、潼关古城があり、毎年多くの観光客が訪れている場所になっている。また主幹道路と黄河に挟まれ、陸側と水側のアクセス性も良い。

4.　基本計画

4.1　高齢者交流

独立した養老施設の多くは高齢者の住み慣れた生活環境から離れていることから，寂しさや孤立感といった心のストレスを伴うことが少なくない。一方の在宅養老にしても，自宅にこもる限りは社会生活から離れ，自己実現のニーズは満たされないという問題が残る。自宅と近接した施設に通う形の養老パターンは，このような高齢者の心理的ストレを解消するとともに，高齢者間の交流も深まる利点がある。生活意欲は高齢者にとっても正常な心理的ニーズであり，多くの友人を得ることで個人の成長と情報交流に対する欲求を満たすことができる。現在高齢者の心理問題は社会的にも注目されており，いかに高齢者が自分の小さい家庭から社会という大家庭に入って，人間関係を豊かにできるかが課題とされている。

4.2　施設養老

生活する場所は専用の養老施設となる。長所は，複数の高齢者と共に生活することで孤独感を避けられ，子女の扶養負担も減少でき，高齢者自身の日常生活も保障される点である。欠点としては，相応の施設と人的資源が必要となるため，経営コストが高くなることが挙げられる。

5.　まとめ

以上，得失を挙げたが，日本の経験から見ても，認知症や寝たきりという事態における在宅養老の限界は明らかである。一方，1960年代のベビーブーム世代の高齢化という巨大なうねりを施設養老で受け止めることは，中国にとって資金的にも人材面でもきわめて難しい。養老コミュニティに期待を寄せざるを得ないのが現実である。

6.　参考文献

[1]　https://www.n-fukushi.ac.jp/gp/coe/report/pdf/wp-2007-11-1.pdf 中国都市部社区における高齢者福祉サービス

[2]https://www.jica.go.jp/project/china/015/news/20190531.ht

[3]　ウィガンサマーニングデパート

イングランドマンチェスター郊外の都市の社会福祉施設https://www.tripadvisor.jp/Hotel_Review-g190919-d6595844-Reviews-Premier_Inn

[4]写真出典―Google earth